

自分と重ねて

共感してくれたら

私が小学校時代、友達から冷たくされたことで先生に相談したことがありました。すると、「その子は人権学習で、こんなに良い感想を書くから、わかってあげてよ」と先生は返しました。

でも、私は、その子は人権学習の模範解答を答えて、心で感じていなかったのでは…。つまり、車イスを使って生活している私のことを別世界の人ととらえていたような気がします。

今、私は大人になり、いろいろな経験もし、発信する機会も多くなりました。私が伝えることを、受け取る人たちが自分と重ねて共感してくれたら…と考えています。



人の心 があれば

私は、盲導犬カポノと暮らしています。カポノは私が安心して安全に自分らしく暮らす上で、なくてはならない存在です。

近頃、ホームドアのある駅、優先席のある電車がありますが、いくら物（物的環境）が整っても100%のバリアフリーはありません。大切なのは「お手伝いすることはありますか？」「危ないですよ」の声かけや気配りできる、人の心です。

目が見えない人は何も出来ないと思っている人が時々います。人はお互いにやれることを補い合う…、そんな社会になれば…と思います。



つながりがあれば

小郡で暮らして40年近くなります。耳が聞こえない私は、暮らし始めた頃、人に伝えたいこと、困ったことがあると、夜でも直接会いに行っていました。その頃はファクスもメールもありませんし、私は電話で伝えることもできません。働いていた洋品店主も耳が聞こえない方で、そのお連れ合いは、手話ができました。それで、私が困っていると、病院や子どもの学校の用事などたくさんサポートしてくれました。

私たちの根気強い要求で25年前より小郡市に手話通訳が置かれるようになり、今はぐっと暮らしやすくなりました。私はたくさんの人とつながり暮らしています。小郡市には私のような方が他にもいて、地域でのつながりを持っているか…心配しています。



私たちは何をもって

「しょうがい」というのだろう

安心できる人・場所

共感できる心

そして、人とのつながり

人は人間であるかぎり

ひとりでは生きていけない

だからこそ

みんなで「しょうがい」を

乗り越えたい